

平成31年度 水産業強化支援事業 事後評価結果

長崎県水産部水産経営課

政策目的		水産業経営の強化	
政策目標		経営構造改善目標	31-1
事業実施主体		深江町漁業協同組合	
実施地区名		南島原市深江地区	
実施期間及び目標年度		実施期間	目標年度
		令和元年度	令和4年度
交付金額		3,910,000円	
事業計画の内容		<p>過大な施設となっている製氷（日産製氷能力5トン）・貯氷設備（貯氷能力10トン）を適正規模である製氷1トン・貯氷3トンに改修し、鮮度保持施設の適正利用を図り、魚の鮮度維持に取り組み魚価向上を目指す。また、氷の大きさを均一化し、角がない形状とすることで鮮魚にキズをつけないで冷やすことができるため、漁獲物の鮮度低下を抑え、魚価の向上を図るとともに、氷の製造原価が下がることにより漁業者への氷の販売単価を下げることができ、漁業経費が削減されることにより、漁業者の所得向上を図る。</p> <p>鮮度保持施設 一式 ・製氷機（製氷能力 日産1トン） ・貯氷庫（貯氷規模 3トン）</p>	
評価	成果目標	漁業者の所得●●●●千円/年の向上を図る	
	現状値 (A)	●●●●●円（令和4年度末時点） 対目標値 【=A/B×100】 102%	
	目標値 (B)	●●●●●千円（令和4年度）	
	(1) 現状値の説明	令和4年度を目標年度とし漁業所得の向上の取組を行った結果、水揚量は計画よりも年々減少傾向にあったが、魚価等が向上したことで、所得向上に繋がった。	
	(2) 地域への経済効果 (ハード事業のみ)	鮮度保持施設の効率的な運用により、漁獲物の鮮度が保たれ魚価等が向上したことで、漁業者の所得向上に繋がった。	
(3) 所見	主要6魚種の水揚量は減少したものの、当該施設の整備により魚価が向上し、また主要魚種以外の水揚額が増えたことで成果目標を達成することができた。		
(4) 評価機関への意見等			
今後の改善方向等に関する分析		今後も整備した鮮度保持施設（製氷機、貯氷庫）を積極的に活用し、漁獲物の鮮度維持・向上に努め、魚価と所得の向上を目指す。	